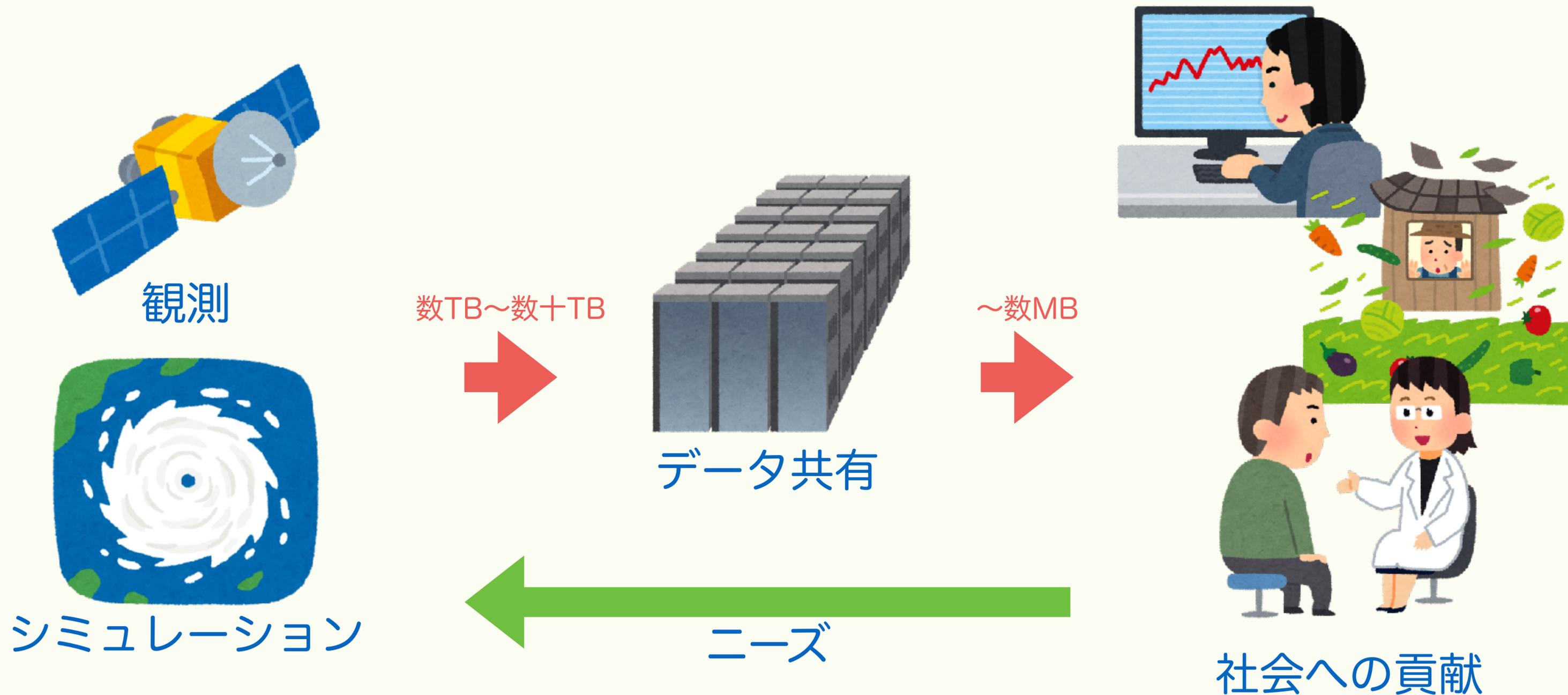


総合討論

八代 尚（国立環境研究所）

地球デジタルツインの動向に関するワークショップ 2022年8月18日

これまでの取り組み



デジタル技術を介して、気象・気候・環境学の知見を社会活動に役立てる

デジタルツインとは（今までと）何が違うのか？

"Digital Twin Engine"



観測



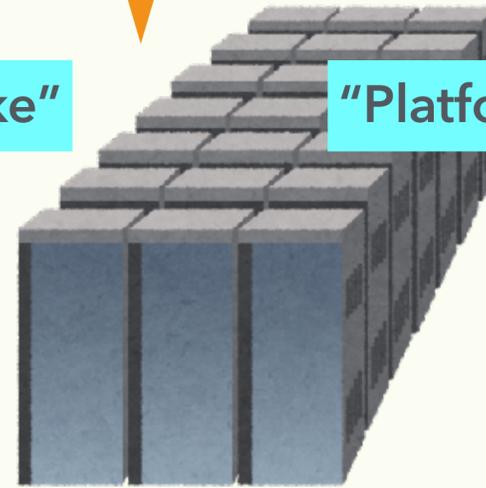
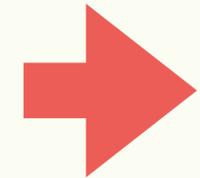
シミュレーション

革新的な精度の観測・シミュレーション技術
→まるで双子

巨大化するデータの
その場解析・キュレーション

"Data Lake"

数十TB～数PB

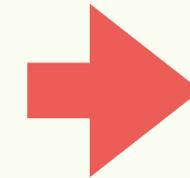


データ共有

迅速なデータ配信

"Platform Service"

～数MB



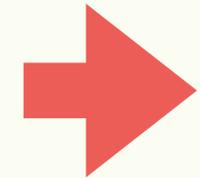
社会への貢献

オンデマンドな簡易シミュレーション？

データ生成、データ変換



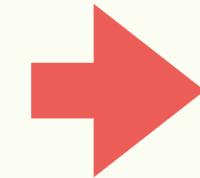
シミュレーションから出力されるデータ
(TB~PB級)



解析・統計・付加価値追加
された応用データ
(MB~GB級)



高速エミュレーション



ユーザが必要とするデータ
(KB~MB級)

この会議を機に、考えるべきことはなんだろう？

- 社会実装を実践する自治体・企業からの意見
- データ解析方法の革新？
 - 「とりあえずダウンロードする」はもうやめないといけない
 - 今までWeb上で提供されたアプリは「見る」が主流。データを好き勝手に「料理する」環境と、そこに参入する人を増やさないといけない
- 継続的かつ大規模なデータ置き場はどうする？
 - 単なる倉庫に予算はつかない
 - 20年安心して貴重なデータを預けられる場所は？
- プラットフォーム乱立よりもキュレーター乱立のほうが嬉しい

メモ

- 「単なる倉庫に予算をつける」流れを作らなければいけない
 - 「倉庫」ではなく「図書館」だ
 - いや「倉庫」だとしてもそもそも価値あるものだとしっかり説明するのだ
- 気象・気候分野だけでなく他の分野でも、分野科学と情報科学を繋ぐ人材は不足している
 - 情報科学の人をどうやってスカウトするか
 - 興味ある、革新的な要素があれば人は集まる例がある